



AMラジオは窓際に

エフシージー総合研究所生活科学研究室上席研究員
堀洋一郎

災害時の情報源としてAMラジオが見直されている

東日本大震災や阪神淡路大震災では被災者が情報を手に入れる手段として、テレビよりもラジオが好まれたそうです。特に東日本大震災時には自治体からの情報や避難誘導でAMラジオの有用性が再認識されました。しかし、残念ながら日常生活での情報源としてのAMラジオの人気は低迷しています。この原因は昔に比べAMラジオが聞きにくくなっていることが大きな要因です。

聞きにくくなった原因は2つ

原因の一つは最近の住宅事情です。電波は金属で囲まれた中には入っていけないので、近年の鉄筋コンクリートのマンションや外壁に金属板を使った一戸建てでは、電波が壁に遮られ部屋の奥では聞こえにくくなりました。携帯やワンセグは波長の短い電波で、電波は窓から入っていただけますが、AMラジオは波長が長い中波という電波を使っているため、窓から入れず、部屋の奥では聞こえにくくなってしまいます。

もう一つの原因は、パソコン、液晶テレビ、スマホなどのデジタル機器から出るノイズ。これらのデジタル機器は微弱な電波を出していて、ラジオの近くにあるとノイズとして聞こえてしまいます。また、インバーター制御の冷蔵庫や洗濯機からも、電源コードを伝わってノイズが入ります。他にも電子レンジや蛍光灯、LED照明などからもノイズが出ていて、最近の住宅事情と相まって、室内での受信を余計に困難にしています。

聞こえやすくするには

聞きやすくする方法の一つは、窓際にラジオを置くことです。AMラジオの電波も窓際までは届いていますから、ラジオをできるだけ窓に近づけることが感度アップにつながります。次に、パソコンなどの移動できるデジタル機器はラジオから遠ざけます。冷蔵庫・洗濯機・電子レンジのアース線をコンセントのアース端子に接続することでも、効果がある場合があります。また、AC100V電源のラジオの場合は、電池式のラジオにすることで電源コードから伝わってくるノイズを避けることができます。

なぜ、AMラジオが再注目されたか

テレビやFMラジオは同じ電波塔から送信していることが多く、電波塔が被災してしまうとすべての局が視聴できなくなってしまう。しかし、AMラジオの送信アンテナは大きいので、放送局ごとに離れた場所に送信所があり、災害ですべての局が放送できなくなる確率が低いことが上げられます。

もう一つは、AMラジオが使っている中波が、テレビやFMラジオの電波よりも遠くまで届くことです。特に夜間は500~2000km遠方まで届きます。例えば関東地方で災害が起きてすべての局が放送できなくなっても、夜であれば、名古屋、大阪、福岡、札幌などのAMラジオ局は聞くことができます。被災して停電で真っ暗な夜に、ラジオから聞こえる声は不安な心を癒してくれることは間違いありません。

もし、AMラジオを持っているなら、夜間に他の地方の放送局を聞いてみてください。防災訓練の一つになると思います。

筆者紹介

堀洋一郎（ほり・よういちろう）

1980年中央大学理工学部物理学科卒。ソニーマグネスケール株式会社を経て、1990年株式会社エフシージー総合研究所入社。現在、同社暮らしの科学部生活科学研究室上席研究員。